

人工衛星搭載ハイパースペクトルセンサがとらえた

鎌倉市近郊・植生状況（2）

データ収集：米国航空宇宙局（NASA）

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

前掲の植生指標（NDVI）以外にもいくつかの植生指標があります。これらを横並びにして比較できるように掲載してみました。上段右が DVI（Difference Vegetation Index）、下段左が TVI（Transformed Vegetation Index）、下段右が IPVI（Infrared Percentage Vegetation Index）です。

なお、上段左にはこれらの植生活性図と比較できるように、カラー合成画像を掲載しました。画像左側が大船駅周辺市街地、下側が鎌倉駅周辺市街地です。画像右上部にはゴルフ場があります。市街地と植生の識別には、DVI が優位であることが判ります。また、ゴルフ場を見ると DVI と IPVI に比べて、TVI は植生領域の活性レベルが高く見積もられることが判ります。植生の活性度を定義することは難しく、利用目的に応じて植生指標を使い分ける必要があります。10nm 毎に観測される Hyperion データは、植生分析の精度向上に役立つものと期待されています。

